トークとピアノの工房〈レヴィ＝ストロース　夜と音楽〉

Lévi-Strauss : La Musique de la nuit

対話　今福龍太 × 小沼純一

ピアノ　内藤晃

Ⅰ　レヴィ＝ストロースと音楽家たち
ショパン　練習曲作品10第３番「別れの曲」
サティ　「ジムノペディ　1番」
ラヴェル　ピアノ編曲版「ボレロ」　他

Ⅱ　レヴィ＝ストロースのブラジル
ダリウス・ミヨー　『ブラジルの郷愁』より「ソロカーバ」「ガヴェア」
エイトール・ヴィラ＝ロボス　「ブラジル風バッハ　第4番」Prelude
アントニオ・カルロス・ジョビン「ブラジルへの郷愁」　他

Ⅲ　レヴィ＝ストロースの神話論理と音楽的主題
バッハ「パルティータ第4番」序曲
バッハ「ゴルトベルク変奏曲」より
ドビュッシー「音と香りは夕暮れの大気に漂う」　他

2012 年 10 月 27 日 (土)

15:00〜18:00 (開場 14:30)

会場：日仏会館ホール

（JR/ 東京メトロ　恵比寿駅下車徒歩 10 分）

ピアノ：ベヒシュタイン C.BECHSTEIN

フランスの民族学者にして 20 世紀の思想的巨人クロード・レヴィ＝ストロース(1908-2009)。彼の生涯と思索は「音楽」と深く結びついていました。祖父はパリ管弦楽協会の創始者。曾祖父はベルリオーズらの協力者だったヴァイオリニスト。レヴィ＝ストロースはそんな家族的伝統のなかで育ち、幼少時代からドビュッシー、ストラヴィンスキー、サティ、ラヴェルらフランス近代音楽の誕生の息吹を同時代的に受け止めていました。のちに音楽を思想的モデルとしてインディオの神話研究で偉大な理論をつくりあげたレヴィ＝ストロース。彼の生涯や著作にかかわりのある音楽作品を新進ピアニスト内藤晃の演奏によって実際に聴きながら、『レヴィ＝ストロース　夜と音楽』（みすず書房、2011）を上梓した今福龍太と小沼純一の対話によって彼の思想の本質を浮き彫りにする例のない形態の催しです。

黄昏が夜へと移りゆく時間帯に、即興的な言葉と音のひとときをお楽しみ下さい！

出演者紹介

今福龍太　東京外国語大学総合国際学研究院教授。文化人類学者。著書に『クレオール主義』『ミニマ・グラシア』『群島-世界論』『レヴィ＝ストロース　夜と音楽』『薄墨色の文法』など多数。

小沼純一　早稲田大学文学学術院教授。音楽文化論。著書に『武満徹　音・ことば・イメージ』『パリのプーランク』『サウンド・エシックス』『オーケストラ再入門』など多数。

内藤晃　ピアノ、指揮、作曲、楽譜校訂など各方面で活躍する新進ピアニスト。その繊細なテクニックと斬新な作品解釈で話題となる。ＣＤに『Primavera』『Les Saisons』など。

参加費：無料　　**別途 冊子資料代：1,000 円**　　**定員 120 名**

要事前予約：メールにて先着順に受け付けます　**yorutoongaku@gmail.com**

主催：〈レヴィ＝ストロース　夜と音楽〉レクチュアコンサート実行委員会
共催：公益財団法人日仏会館
協賛：みすず書房

イベントについてのお問合わせ：日仏会館　03-5424-1141　（内容については上記メールにお問合わせください）